

第 26 期（令和 6 年度）事業報告

（概要）

令和 5 年度に特養でコロナによるクラスターが発生したため、感染対策を徹底したが、令和 6 年度も発生し、ご利用者・ご家族に多大なご負担をかけてしまった。保健所とも連携し、引き続き感染対策の更なる徹底を図っていく。

2025 年、団塊の世代が全員 75 歳以上となり、日本はかつてない超高齢化社会を迎えた。福祉の分野は大きな転換期を迎えている。

現場においては、人材の確保難、光熱費や食材費等の高騰、施設の老朽化、感染症への対応など多くの課題を抱えており、大変厳しい経営環境に置かれている。

「介護は人なり」を本旨として人材の確保、働き方改革への対応、ICT 導入による介護現場の生産性向上など、今日的課題の解決に取り組まねばならない。

ICT もロボットもこれからの介護現場には不可欠であるが、介護には、人権や尊厳を尊重する総合的な人間力が必要となる。ご利用者様に活力を得ていただくために、介護の情緒的な側面を大切にし、感情的な部分と上手に関わっていくノウハウを ICT や介護ロボットと両輪で進めていきたい。

期初に掲げた地域貢献と災害対策及び職員定着の為の研修会等を地域の社会福祉法人と協働で実施してきた。令和 7 年度も更に充実して実施する。

令和 6 年度の事業運営状況を報告します。

1. 期初の計画と実施状況

期 初 の 計 画	実 施 状 況
1. 競争力アップの為の介護技術力強化と人材育成・確保の施策	
(イ) 各種委員会活動の強化・推進(継続実施事業)	(イ) 現在 10 の委員会が活動している。令和 6 年度も感染・防災・事故防止委員会に注力した。
(ロ) フリセブターシップ制度(継続実施事業)	(ロ) 上席職員による OJT にて個別教育を令和 6 年度は職員 3 名実施。
(ハ) 施設外の各種研修への参加派遣(継続実施事業)	(ハ) コロナウィルスが 5 類となり、外部の研修も徐々に増えた。
<u>施設外研修参加目標</u> <u>40 件以上</u>	研修派遣の実績は以下の通り 介護職員 41 件(前年度 29 件) 事務他 22 件(前年度 23 件) 合計 63 件(前年度 52 件)
(ニ) 施設内研修会・勉強会の実施(継続実施事業) <u>目標 10 件以上</u>	(ニ) 施設内研修を実施した。 施設内研修会 13 件(前年度 15 件)
(ホ) 人事考課制度(継続実施事業)	(ホ) 年 3 回実施し職能及び夏・冬賞与に反映させた。
(ヘ) 時給職員の正職員への登用制度(継続実施事業)	(ヘ) 先駆的取組であるが、令和 6 年度は該当者なし。
(ト) 職員の個人面談	(ト) 職員の定着を図る為実施。 職員の要望等を聞き、業務に反映させた。

2. 自立支援、地域交流の為の各種行事等の実施 (イ) 専門講師への業務委託による音楽療法への実施 (継続実施事業) (ロ) 地域福祉の活性化への積極協力 (継続実施事業) (ハ) 施設内外での各種行事の実施 (継続実施事業) (ニ) ホームホランティアの効果的活用 (継続実施事業)	(イ) 音楽療法士による音楽指導を特養で実施した。令和6年度は、44回実施。 (ロ) 感染対策を徹底し、令和6年度は、19名の実習生を受け入れた。 (ハ) 近くのコンビニでの買物や遠足を実施。室内での行事は全て実施した。 (ニ) 月に1回「あおい空」の方々に繕い物に来て頂いている。今後も良い方向に向けて継続して行きたい。
---	---

2. その他 実施事項

社会福祉充実計画の実施

社会福祉法人は、保有する財産について、事業継続に必要な財産の額を控除した上で、再投下可能な財産（社会福祉充実残高）を費消する必要がある、令和6年度の計画を実施した。

・見守り用低床ベッド	4,339,500 円
・多様な需要に対する食事提供	1,500,000 円
・介護記録OA化保守	607,200 円
・職員の増員・奨励金	25,303,867 円
・駐車場の拡充	600,000 円
・防災備蓄品(防災食他)	261,000 円
・厨房業務用テーブル形冷蔵庫	458,150 円
・厨房 〃 冷蔵庫	241,450 円

備品の購入

開設以来 25 年が経過し、器具・備品の不備・故障が多くあり、備品を購入した。

・居室 301 号室空調機	506,000 円
・新館食堂空調機	506,000 円
・相談員・ケアマネ デスクトップパソコン（4 台）	748,000 円

介護予防・日常生活支援総合事業の継続

町が行う介護予防事業を受託し、短時間のデイサービスA型を実施した。デイサービスA型から通常デイサービスへ6名移行した。

自立した高齢者を対象にした、いきいき倶楽部は週1回実施し30名程度の方が利用されている。いきいき倶楽部から通常デイサービスに1名移行した。

防災の強化

※南海トラフ巨大地震を想定した避難訓練を12回、夜間参集訓練を1回、夜間防災訓練1回実施した。消防署の立会訓練は2回実施した。

※防災食は、2回提供した。

お粥以外に親子丼やカレー等を取り入れた。

※BCP（事業継続計画）の強化

- ・BCP（事業継続計画）マニュアルの検討
- ・震災後、7日間の飲料水,おむつ,食糧の備蓄
- ・防寒具の備蓄 等

事業報告の付属明細書はありません